

「社会」の発見とキリスト教

—関西学院と神戸・阪神間地域における—

「社会学」を冠する学科が日本ではじめて創設されたのは、1915年、関西学院においてである。なぜ、キリスト教主義に基づく関西学院で、社会学科が生まれたのか。さらには、神戸や西宮でなぜ、教会が多く見られるのか。本報告では、こうした問いに答えていくため、他者への眼差しを前提とする「社会」への認識の誕生と、キリスト教、神戸・阪神間地域の関わりについて考察する。

講師： 荻野 昌弘 氏（関西学院大学社会学部教授）

<講師プロフィール>

パリ第七大学社会科学部博士課程修了。博士（社会学）。1990年に関西学院大社会学部に専任講師として着任し、2000年より現職。主著に『資本主義と他者』（関西学院大学出版会、1998年）、『零度の社会』（世界思想社、2005年）、『開発空間と暴力』（新曜社、2012年）、*Sociology of World Heritage* (Routledge、近刊) など

● 日 時：2021年7月9日（金）17:10～18:40

新型コロナウイルスの感染防止のためZoom開催となります。
参加には事前登録が必要です。参加ご希望の方は右のQRコードから
7月1日（木）までにご登録ください。
後日、ZoomのURL等をお知らせいたします。

